

**Citation:** Parker MJ, Gillespie WJ, Gillespie LD. Hip protectors for preventing hip fractures in older people. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2005, Issue 3. Art. No.: CD001255. DOI: 10.1002/14651858.CD001255.pub3.  
**CRG名:** Bone, Joint and Muscle Trauma

### [最新版\(英語版\)はこちら](#)

**英語版最終改訂年月:** 19 May 2005  
**Clib issue No.;** N/U: 2007 issue 4; -

**背景:** 高齢者の大腿骨頸部骨折は通常、尻もちをついたことにより生じる。大腿骨頸部骨折が生じるリスクを軽減する方法として、ヒッププロテクターが提唱されている。

**目的:** 外付けヒッププロテクターが転倒後の高齢者において大腿骨頸部骨折の発現頻度を減少させるか否かを判定する。

**検索戦略:** Cochrane Musculoskeletal Injuries Group trials register(2005年1月)、Cochrane Central Register of Controlled Trials(コクラン・ライブラリ2005年第1号)、MEDLINE(1966年~2005年1月第2週)、EMBASE(1988年~2005年第2週)、CINAHL(1982年~2004年12月第2週)、その他のデータベースおよび関連論文の参考文献リストを検索した。また、試験実施者に問い合わせた。

**選択基準:** ヒッププロテクター使用群とコントロール群を比較しているすべてのランダム化または準ランダム化比較試験。

**データ収集と分析:** 2名のレビューアが独自に試験の質を評価し、データを抽出した。試験実施者からその後追加された情報を求めた。クラスターランダム化試験から得た未補正データの統合は探索方式に基づいて行われた。

**主な結果:** 選択した15件からのデータが今回のレビュー改訂に含まれた。12週間継続したコンプライアンス(順守)に関する研究である1件の試験からは骨折アウトカムのデータは得られなかった。看護または施設介護の状況で実施された6件のクラスターランダム化研究を含む11件の試験からのデータを統合した結果、大腿骨頸部骨折の発現頻度が統計学的にわずかに有意に減少することを示すエビデンスが得られた(相対リスク(RR)0.77、95%信頼区間(CI)0.62~0.97)。この解析から統計学的に有意な異質性が示された。地域に住む参加者5135例を対象とした3件の個別ランダム化試験からのデータを統合した結果、プロテクターによる大腿骨頸部骨折の発現頻度の低下は示されなかった(RR1.16、95%CI0.85~1.59)。骨盤、その他の部位の骨折頻度に及ぼすヒッププロテクターの有意な効果はみられなかった。ヒッププロテクターに関する重大な有害作用は報告されていないが、コンプライアンス、特に長期のコンプライアンスは不良であった。

**レビューアの結論:** 蓄積したエビデンスは、高齢者の大腿骨頸部骨折の発現頻度を減少する上でヒッププロテクターの提供の効果に疑問を投げかけている。プロテクター使用者の受容および順守は、不快感および実用性の観点から依然として不良である。

(監訳 尹忠秀)

翻訳公開日: 08年1月11日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がありましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年4回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。

